

○各大学における特色ある取組、公立化時の目標達成状況

教育の質の向上及び地域貢献のための取組状況

地域協創センターの設置

長岡造形大学は、平成6年に公設民営方式により設立した経緯から、教育研究における地域との結びつきを重視するとともに生涯学習・イベントなど市民が大学に能動的に足を運ぶ機会をつくってきた。

平成26年4月の公立大学法人化に伴い、大学改革として「経営力の強化」「教育研究力の強化」「地域貢献力の強化」を掲げ、将来にわたり地域社会に貢献できる大学への新たな一步を踏み出した。特にこれらの3要素を有機的につなげ、より一層地域との連携を深めるために、地域協創活動の専門機関である「地域協創センター」を開設した。地域協創センターは本学の教育研究活動と地域貢献との結びつきを最適化するプラットフォームとなり、地域のあらゆるデザインニーズを一元的に受け止め、デザインの活用を更に広めていくことが可能となっている。コーディネーター役として本学専任教員である地域協創センター長と事務局を配置し、事業・活動等の実施にあたっては本学全体をあげて取り組んでいる。

地域・社会連携系科目の推進

学生が地域活動に関心を持ち積極的に参加できるよう、地域社会を実践的な学びの場とする演習・実習科目を開講した。企業や自治体・コミュニティ等と協働した課題解決への取り組みは、「社会人基礎力」「構想力」「創造力」を育むアクティブラーニングとして、カリキュラムへの積極的な導入を行っている。

地域貢献に関する目標の達成状況

公立大学法人長岡造形大学中期目標（令和2年度～令和7年度）で以下のとおり、目標を設定している。

(1) 地域社会との連携

地域社会と協働し、デザインを通じた地域課題の解決や新たな地域価値の創造を目指す。また、子どもから大人まで生涯にわたる学習機会を提供し、文化活動の振興に貢献する。

・公立大学法人化前より地域・企業からの受託研究の取り組み、官学が連携したイベントの実施、敷居は低く開かれた大学として、大学施設を広く市民に開放するなど継続的に取り組んできた。

公立大学法人化に合わせて設置した地域協創センターはワンストップ窓口の機能を有し、当該センターを介して市民、産業界、高等教育機関、行政機関、金融機関等と連携した様々な取り組みが生まれている。その中でも、学部の授業科目「地域協創演習」、大学院の授業科目「地域特別プロジェクト演習」は、コミュニティデザインやサービスデザイン等の実プロジェクトに学生が実践的に取り組み、新たな価値創造への挑戦を通して地域の活性化に資する授業となっている。これらのプロジェクトを令和3年度は13件の演習に組み立てて実施したほか、その他の演習科目等においても企業や高等教育機関との連携により課題を設定して授業を実施した。

・長岡市の人づくり・産業振興に資するために長岡市、市内4大学1高専及び長岡商工会議所で構成するNaDeC（ナデック…ナガオカ・デルタ・コーンの略）構想推進コンソーシアムでは、長岡市中心市街地に整備されたNaDeC BASE（NaDeC構想の先行実施の場）を活用した研究開発や産学官連携事業を協力して実施している。令和3年度はNaDeC構想に基づく授業連携として本学の地域協創演習と長岡高専のアントレプレナーシップ演習のコラボレーション授業及びNaDeCを構成する7機関がそれぞれ講師を担当する「長岡学」を実施した。

・一般市民に向けたレベルの高い工芸分野の実技講座である市民工房は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため大学内の専門施設を使用する従来の講座を中止としたが、専門設備のない場所での試行も含めてガラス・漆芸・織り物の計5講座を別会場で開講した（令和3年度実績）。併せて、講座や技法を紹介する動画を作成し、大学ホームページで公

開した。

・小学生に向けたデザイン・美術講座であるこどもものづくり大学校は、デジタル工作、ガラス工芸の2講座をオンラインで実施した。また、長岡市中心市街地の再開発事業で、人づくり・産業振興の拠点として令和5年7月に先行オープンする米百俵プレイスミライエ長岡を活用する取組の試行として、長岡市と連携し、小学生と本学学生による1冊の絵本づくりプロジェクトを実施した。

(2) 産業振興との連携

企業、自治体、教育機関、金融機関等と連携し、研究成果や人的資源を生かして事業支援を行うことで、地域の産業振興に貢献する。

・地域協創センターを窓口企業等と連携を進め、受託研究7件、共同研究4件の契約を締結し、研究を実施した。また、小学校でのデザインによる課題解決や企業との商品開発などを実施した。なお、幅広い課題に対応するため、地域で活動する本学出身のデザイナー等とも連携を行っている。

・NaDeC 構想に基づく授業連携として本学の地域協創演習と長岡高専のアントレプレナーシップ演習のコラボレーション授業及びNaDeCを構成する7機関がそれぞれ講師を担当する「長岡学」を実施した。[再掲]

・長岡市職員を対象にしたデザイン思考に関する研修を12回、市民を対象としたオンラインでのデザイン思考のワークショップを8回、講演を1回実施した。また、企業を対象にしたデザイン教育を2回実施した(令和3年度実績)。

・市内高等教育機関(4大学1高専)と長岡市とで連携し、長岡駅前の学びと交流の拠点であるまちなかキャンパス長岡を運営するとともに、講師を派遣し、人材育成に取り組んだ。

(3) 若者の長岡への定着

市内在住の高校生及び市内高校出身者の積極的な受入れを図る。また、卒業後における長岡への定着促進にも資するよう、市内企業及び自治体と連携した学生及び卒業生に対するキャリア形成支援に取り組む。

・地元高校生の高等教育機関への進学機会を確保することを目的とし、長岡市内の在住者は入学料の半額141,000円を免除している。また、学部入学定員230人のうち長岡地域定住自立圏(長岡市、小千谷市、見附市、出雲崎町)の優先枠20人を設定し、生まれ育ったまちの大学で知識や技術を身に付け地元就職する、それら人材が新たな地域価値等の創出に貢献するよう入試制度の面でも取り組んでいる。

・公立大学法人化後に入学者の県内外比率が逆転し、多くの県外出身者を受け入れており、現在県外出身者は約8割である。学生の多様な地域性から様々なアイデアが生まれ、先記の「地域協創演習」では実プロジェクトに取り組む地元企業や行政などに対して幅広いアプローチができ、新たな価値の創造につながる動きとなりつつある。県外出身者が本学で地域をフィールドに学ぶことで県内及び長岡での就職等を進路として選択するとともに、県外に出ていく学生においても本学で修得した能力を発揮し、それぞれが関わる地域や社会の発展に貢献することを期待している。さらにそれが新しい時代の社会を担う多様な入学者の受入れにつながるものと考えている。